# 本能まちづくりニュース

第2号　平成12年3月9日発行
本能まちづくり委員会
委員長　西嶋直和

## 平野郷を歩く

２月２６日、本能まちづくり委員会第１回研修会が行われました。
当日、本能まちづくり委員１８名の参加があり、小雪が降る中を大阪市平野区の平野郷 HOPE ゾーンのまち歩きがなされました。

まず、まち歩きに先立って、平野郷 HOPE ゾーン協議会会長、松村長二郎氏から平野郷まちづくりの成り立ち、現状の説明がありました。松村氏はその中で、「この会では会長や副会長などとは呼びません。会長は惣年寄、副会長は若年寄、会計は勘定方などと呼び、役員は７人衆と呼んでいます。また、建設省の HOPE ゾーン事業によりガイドラインに沿って外観工事に対して補助が行われています。一方で町の博物館は、みんなの遊び心で楽しみながらやっています。」と、いろいろな事例をあげてのユーモアたっぷりな説明に参加者は楽しく耳を傾けました。

その後、松村氏の案内で町を歩き、毎月第４日曜日には１３軒開かれるという町の博物館や修景工事現場を見学しました。つづいて、大阪・平野の町づくりを考える会事務局の川口良仁氏の講演があり、研修会を終了しました。

**資料 平野郷**

**概要**　大阪市の東南に位置し、平安時代より交通の要衝として栄え、戦国時代には町の治安と自治を守るため集落のまわりに二重の堀をめぐらせた「環濠集落・平野郷」を形成した。現在では、周辺の宅地化が進み、濠も一部を残して埋め立てられたが、碁盤目状の町割り、季節の祭礼など歴史と伝統を色濃く残す町である。

１９８０年に駅舎の保存運動を機に、任意団体である「平野の町づくりを考える会」が結成され、「歴史を生かす町づくりを」をテーマにハード・ソフト取り混ぜてさまざまな町づくり活動を展開している。特に１９９３年からスタートした「町ぐるみ博物館」では、商店や寺社を改造し「駄菓子屋さん博物館」「幽霊博物館」「平野映像資料館」などとして公開（全１３箇所）。公開日の毎月第４日曜日には、地図を片手に博物館めぐりをする観光客が多く訪れる。

現在、「平野の町づくりを考える会」は、平野郷 HOPE ゾーン協議会の核となって活動をしている。

## 魅力探し

本能まちづくり委員会　委員長西嶋直和

１０年ひと昔といいますが、現在の急速な変化をみますと５年ひと昔といっても過言ではないでしょうか。この変化に対応していくため、私たちみずから、自分たちの町は自分たちで考えていく時だと思います。

まちづくりの基本は「本能のまち」で住みたい、育てたい、仕事をしたい町である事ではないでしょうか。そのためには、今一度本能のまちを見つめなおし、新たな資源を見つけ出し、魅力ある町にしていく事だと思います。

まずは、新しい資源探しに「本能まちづくり」にご参加いただきますようお願いいたします。

## みんなで勉強しました　平野の町づくり

**講師　大阪・平野の町づくりを考える会　川口良仁**

○ 平野の町づくりを考える会は昭和５５年に発足して、今年で２０周年になります。そのきっかけは南海平野線のチンチン電車の廃線に伴って、八角形駅舎の保存に始まった運動です。発足当時に４０名がかかわり、現在も会員はおおよそ４０名です。この会の一番の特徴は、会則もないし、会費もないし、会長もないことです。この会の活動は大まかにハード、ソフト、アート、伝統継承に分かれていますが、メインテーマは歴史を生かす町づくりです。とりわけ、この会の特徴はアートにあります。活動として、昭和５８年から「たそがれコンサート」、平成８年からは町全体を美術館と見立てた「モダン de 平野」などがあります。

○ あと１つは伝統継承です。１３００年以上の歴史のある町ということで、伝統行事、年中行事といった文化財が残っています。あるものは明治以来途絶えていたものを復活し、江戸時代に盛んであった名物をもう一度よみがえらせて現在販売しています。

裏面につづく

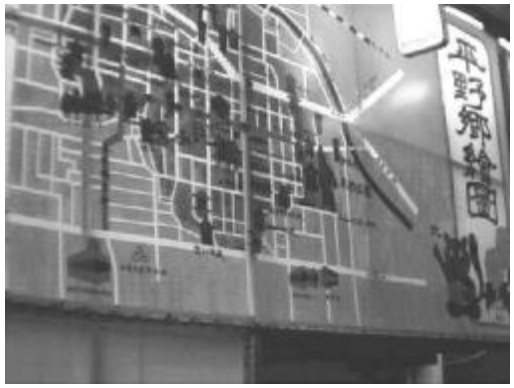
本能まちづくり委員会の次回開催日
平成１２年４月３日（月）午後７時より
ばしょ：本能自治福祉会館２階　小川通蛸薬師下ル

当日飛び入り大歓迎！

○ 組織には、役員がいませんので、プロジェクト主義をとっています。自分がこれにかかわろうと思う人が手を上げると、みんなが協力をする。みんなが会長であり、みんなが会員であり自分の興味のあるところへ入ればよいといった組織作りをしています。

○ 町づくりの最初は、まずは自分の町を知り再発見することにあります。昔話を聞き取り本にしたり、平野弁のおもしろい言葉を収集したり、なくなりつつある昔の風景を写真に残していくといったことも大事にしています。町づくりの博物館は平成５年からの活動です。これも人を呼んで観光化するためにしたのではなく、住んでいる人自身に自分たちの町をよく知ってもらうため、そして残っている文化財や暮らしを再確認、再発見してもらうためのものです。

○ 私たちは、行政、商店街、企業と一切関係なく一定の距離をおいて、素人の住民だけで運営していますので、大きいものは作ることができません。そこで個人の店や、神社仏閣の一部を開放してもらいそこにある文化財なり収集しているものを見てもらうということを町づくりの一環としています。ここでは、品物が並んでいるだけではなく、館長さんと直接話をすることができ、人とのふれあいがあってこそ面白く、町全体が博物館であるといった考え方で活動しています。町の目に見えないところを肌で感じることで、これを「感風」と名づけて大切に思っています。重要な文化財だけではなく、本当は庶民の手垢の歴史を残していこうと思っています。これが町づくり博物館の原点です。日常生活をもう一度いかに新鮮に見直して自分たちの町や足元を豊かに暮らしていくかを考えていけば、すでにあるものをいかに新鮮に見ていくかといった意識革命が本当の町づくりではないのかと感じています。



○ 私たちの会には３本の大きな柱があります。この会活動の一番のエネルギーは「おもしろいことをやる」という精神です。「おもしろいことをやる」ためには、「いいかげん」にやらなければできない。すなわち、遊び心がなければできません。また、この会は会費を集めていませんのでお金がありません。お金がない分どうするかというと、「人のふんどし」をあてにします。人の頭と体を借りるということです。「おもしろいことをやる」と「人のふんどしで相撲を取る」ということが一致するとネットワークを作るということになります。

○ 町は常に動いている。だから町づくりをするには、計画を立てるものも、執行するものも常に動いているものの中で行わなければならない。その町の中に住んでいるものでなければその感覚はわからない。町の人が主役である。町があって人がすんでいるのではなく、人が集まって町ができる。町づくりの中で、人と人との関係が一番の財産になると思います。予算がなければ動けないのではなく、まずは動いてみることです。動けばそこに風が起きます。その風でなびいたものを捕まえて放さない。そこから何かを考えてください。

**編集後記**

松村氏の「『町づくりを考える会』の活動は、利潤はないけれども十分楽しませて貰っている。参加する人達の能力が引き出されて生かされている。」とのお話には、ボランティア活動の真髄が表わされていると思いました。　N.K

平野まちづくり委員会の方々の「おもしろいこと」を「いいかげんにやる」という言葉の中に、人々の街を愛する情熱を感じました。今、我々も「まちづくり」という種をまいていますが、将来どんな花や実を持つか、永い目で見守っていきたいです。　S.H

「研修会」この堅苦しいイメージと違い、始終楽しくなごやかで活発な平野郷町あるき。傘とカメラとバインダーを持ち悪戦苦闘の一日でした。他町にない魅力ある本能の活力を多くの視点から、今後お届けします。　K.C

本能まちづくりニュース第２号をお届けします。今回からスタッフも増え、前号とやや趣の違う号に仕上がったと思います。本能まちづくりニュースに興味のある方、ぜひ、本能まちづくり委員会に参加してください。　M.O

連絡先⇒西嶋直和　電話２２１－６８２６